

# 公同礼拝

2022年6月19日(日) 午前10時30分

午後2時

司式 牧師 高橋和人

前 奏

招 詞 詩 編 51編12節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

ホセア書 6章1～8節 (旧1409)

マタイによる福音書 9章9～13節(新15)

祈 祷

使徒信条

讃 美 歌 238 (1)

説 教 「新しい招き」 牧師 高橋和人

祈 祷

讃 美 歌 502 (1)

献 金

頌 栄 543

祝 祷

黙 祷

## 6月の祈り

ペンテコステの恵みを覚えて、聖霊の励ましと慰めが与えられ、慰めの教会としての歩みを果たすことができるよう。

コロナ禍によって困難を負っている人々と諸教会がこの時を乗り越えられるよう。

戦火が早く止み人々の生活が回復されるよう。弱い立場の人々や子どもたちが守られるよう。

## 今日の祈り

今日の日を主の日として守り、主の御名によって生かされている恵みを覚えることができるよう。

主イエスがご自分を犠牲にしてわれらを主のものとされた恵みに応答して自分を捧げる思いで、礼拝することができるよう。

教会がコロナ禍からの回復の歩みに向かうことができるよう。

愛する家族を主の御許に委ねた兄弟姉妹の上に慰めの主のみ手が与えられるよう。

### 「新しい招き」 高橋和人

マタイによる福音書 9:9～13

マタイが登場する。その名はこの福音書の名になっている。詳細は分かっていないが同じ名前である。彼は徴税人。属国に対する徴税は支配力の行使、何かをもたらすわけではない。彼は収税所に座っている。毎日の仕事中であった。いきさつも思いも記されない。職業の選択肢があったわけではない。彼の上には重層した支配があり、自身に矛盾をもたらしていた。それは誰にでも重荷である。人は望まないものを抱えて生きる。

主イエスは彼に目を向けた。彼は多くの好意的ではない視線にさらされていた。主イエスの視線は違

っていた。弟子の召命の時と同じ。違うのは、山上の説教の後にある。マタイの選びは主の説教の起こしたことだ。

主は説教で神の国をもたらした。神の支配される本来の世界が示された。空の鳥、野の花に示された世界だ。それが収税所に座るマタイに届く。

主の声は、「わたしに従いなさい」である。彼は立ち上がってイエスに従った。マタイの名は弟子の一覧以外にはここにしかない。これ以上ない簡素な紹介だ。壮大なマタイによる福音書、しかし、マタイにとって必要なことは、主が見つめ、呼びかけ、自分が従ったことだ。

主は食卓に招いた、そこは多くの徴税人や罪人も同席していた。ファリサイ派は非難する。ふさわしいものが招かれるべきだという。

神は憐みを求めると言われる。神が憐みだからだ。憐みによって人を招かれる。憐みを必要とする者こそ、招かれることになる。自分には憐みが必要だと知ることが神の憐みに心が開かれることになる。自分のみじめさを知る時、憐みと慰めを知ることになる。

主は「正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである」と明言された。人のみじめさの原因は罪である。罪は神なしに生きようとする、神との歪んだ関係だ。

それは、自分の腹を神として自分に執着する(ローマ16:28、フィリピ3:19)か、空しさを嘆くかである。その行き着くところには何もない。

主のまなざしを知り、その呼びかけを聞き、立ち上がって従うこと、だれもが受け入れることのできることである。そこに主の愛と憐みと慈しみがあり、われらの信仰がある。